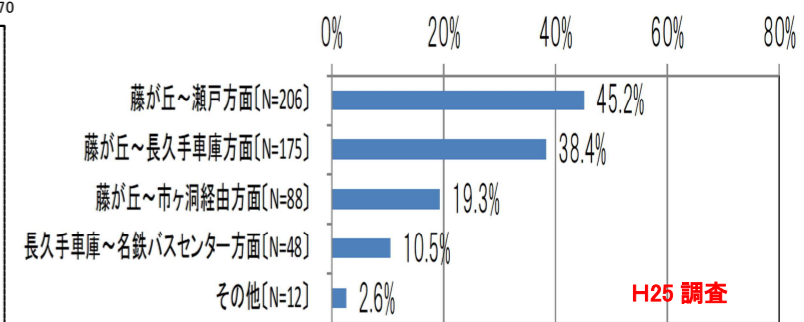
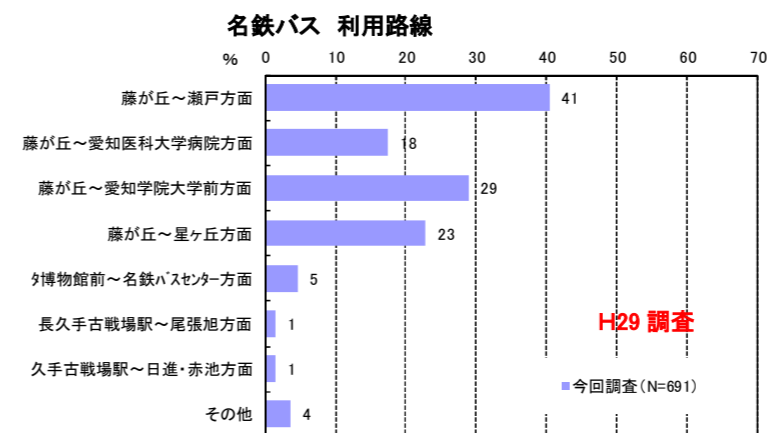
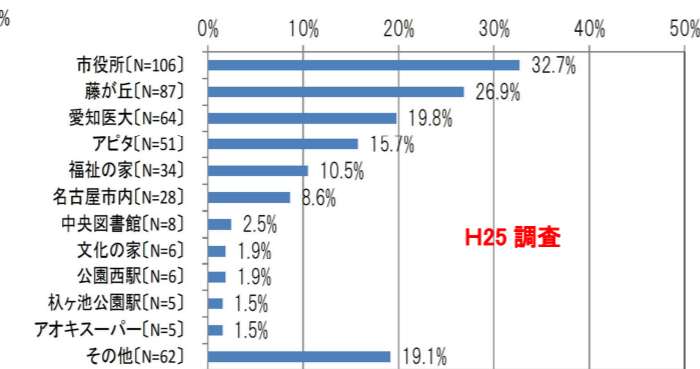
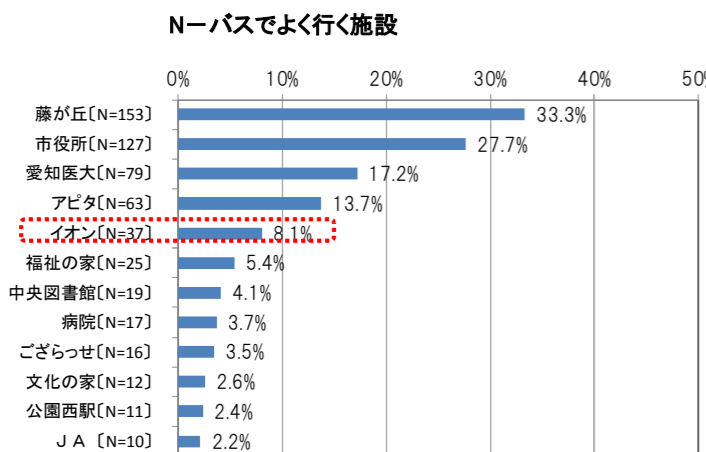
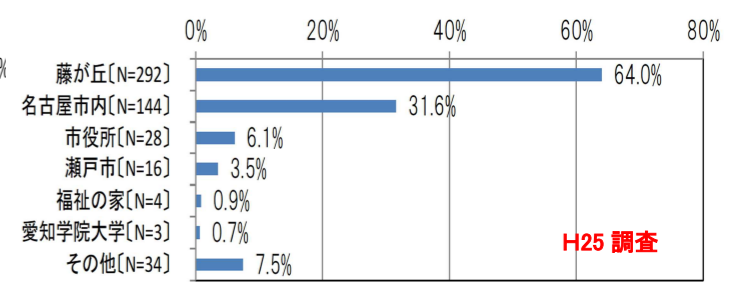
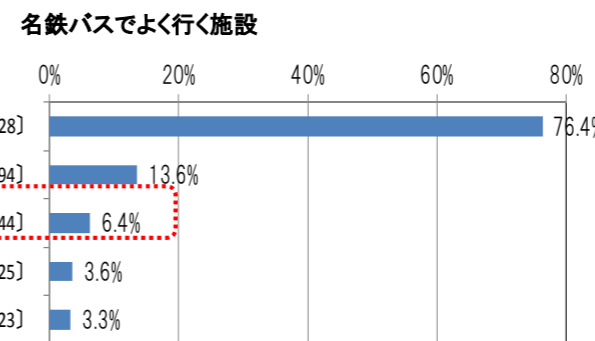
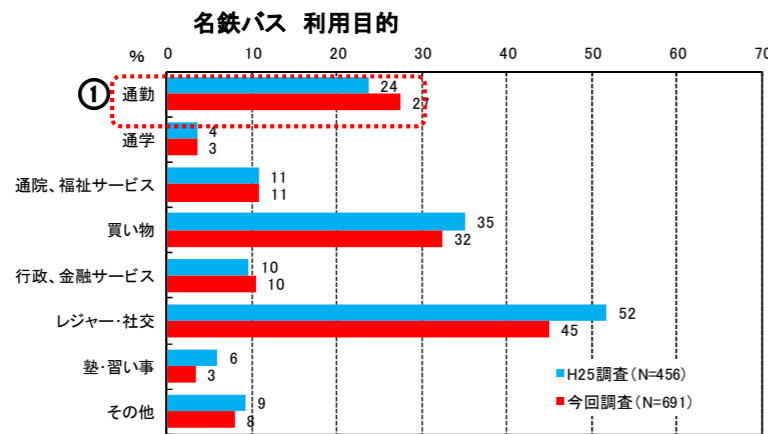
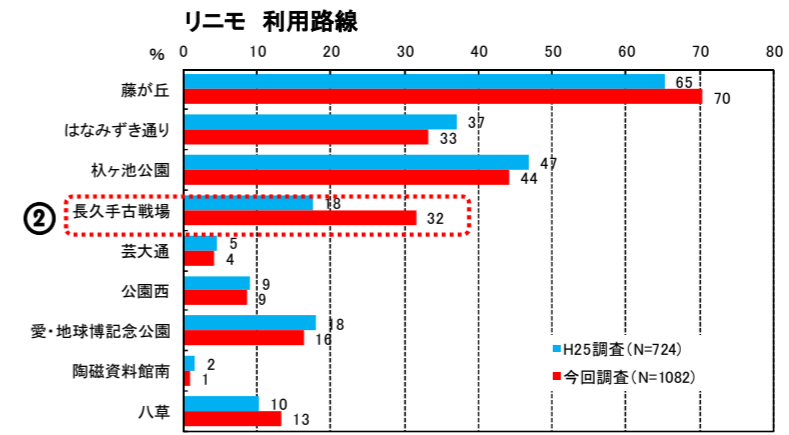
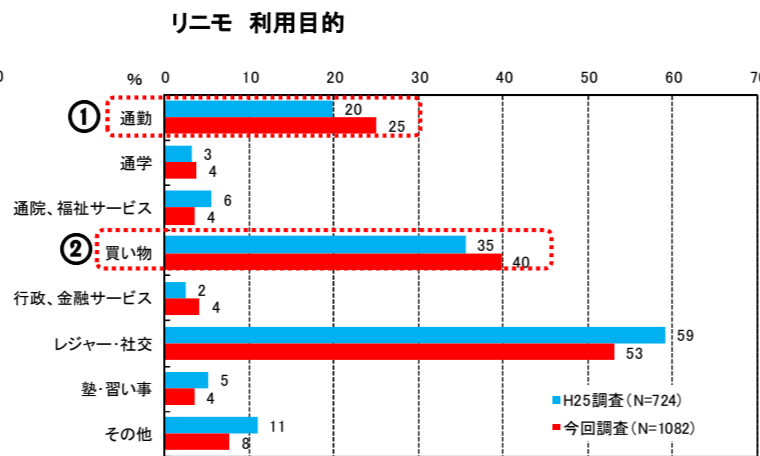
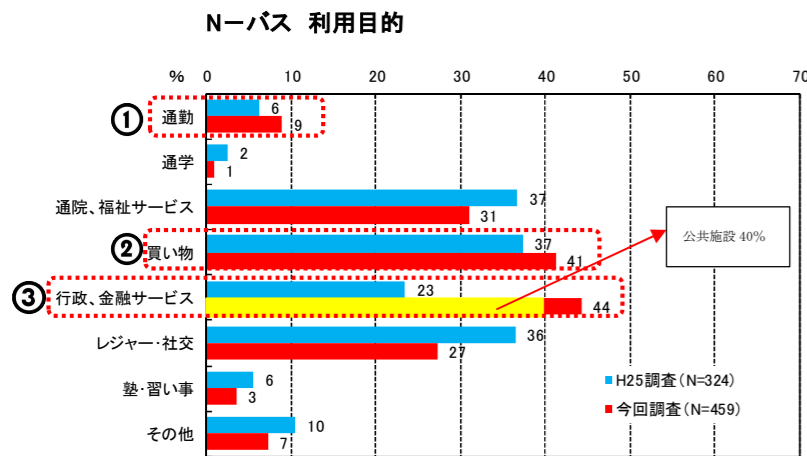
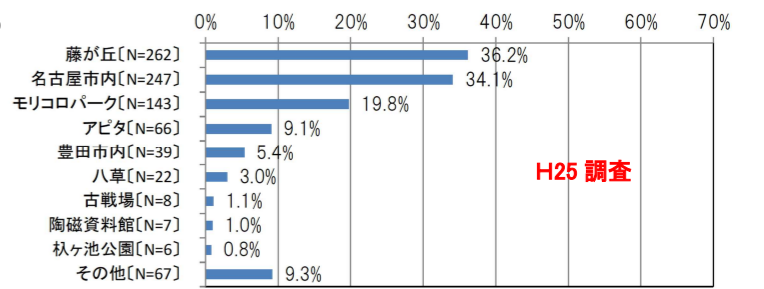
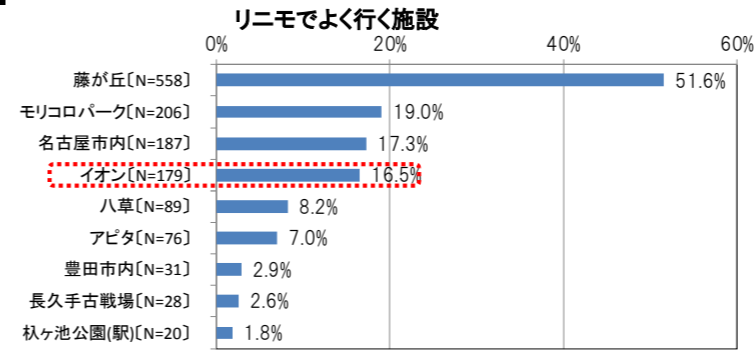


1. アンケート調査結果の概要

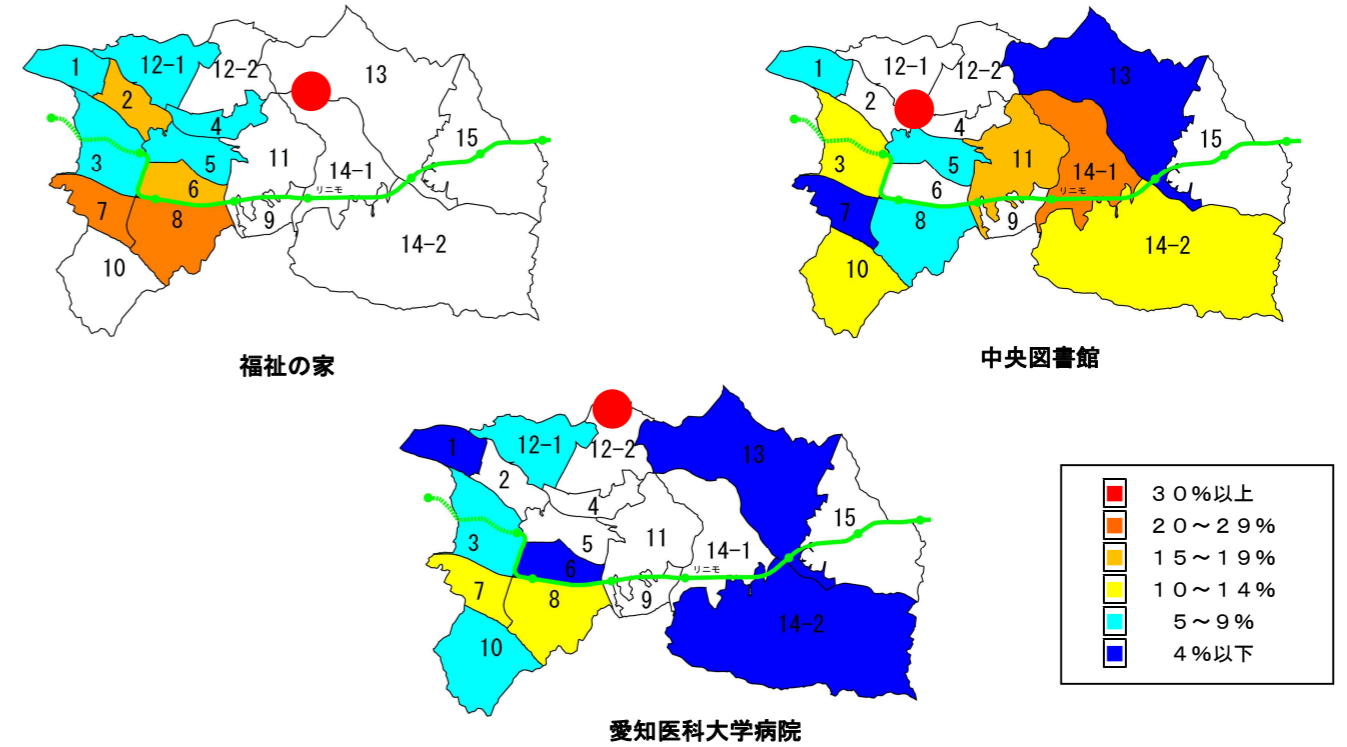
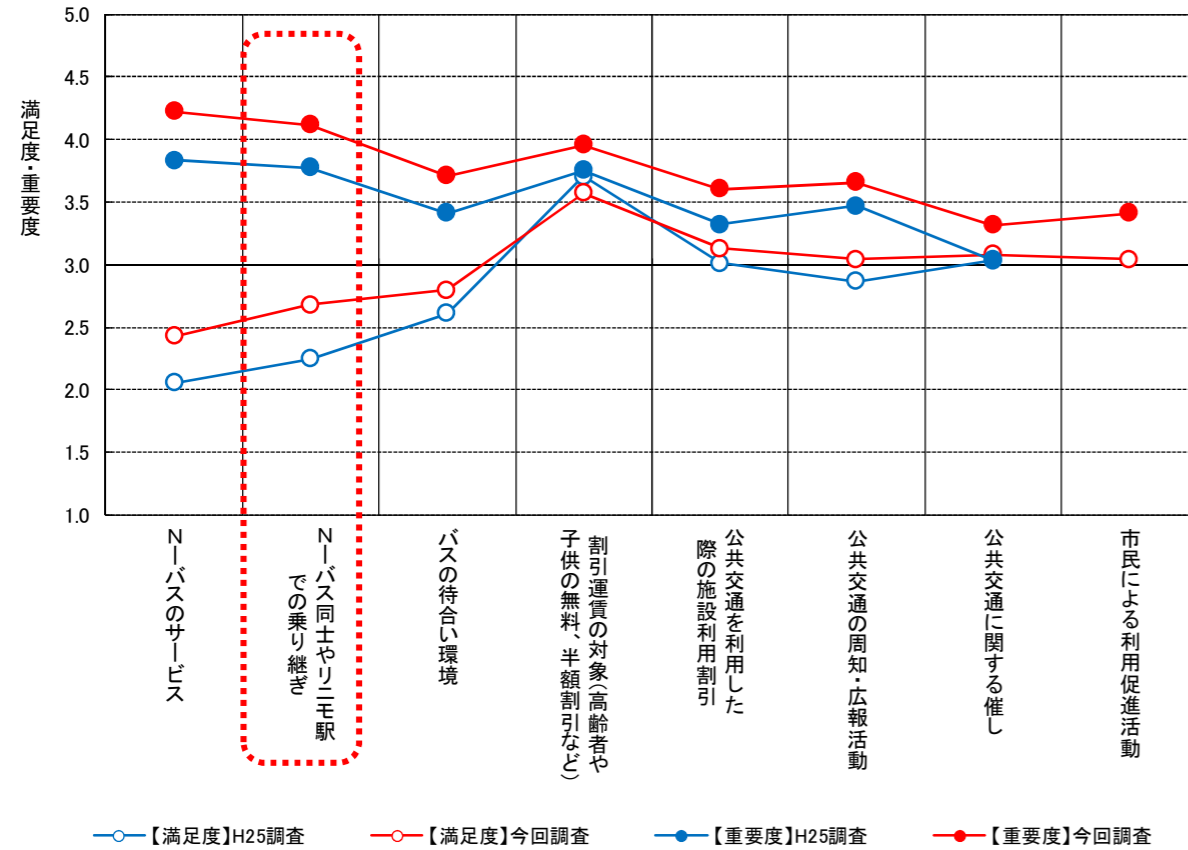
- ① Nーバス、名鉄バス、リニモ全てにおいて、利用目的で通勤割合が増加している。
 - ② Nーバスとリニモの利用目的で共通して、買物の割合が増加しており、よく行く施設として、新たにイオンが上位に位置しており。リニモの利用路線で見ると、長久手古戦場駅の増加割合が大きい。
 - ③ Nーバスでは、平成 25 年度調査と比べて、「行政・金融サービス」の利用目的が増加しており、特に、公共施設の割合が増加している。
 - ④ 名鉄バスでは、新たに「愛知医科大学病院方面」の路線が設定されたことにより、長久手市内のよく行く施設で「愛知医大」が上位に位置する。
- ・ 生活環境、交通環境の変化により、イオン、愛知医科大学への移動ニーズの変化が出てきている。



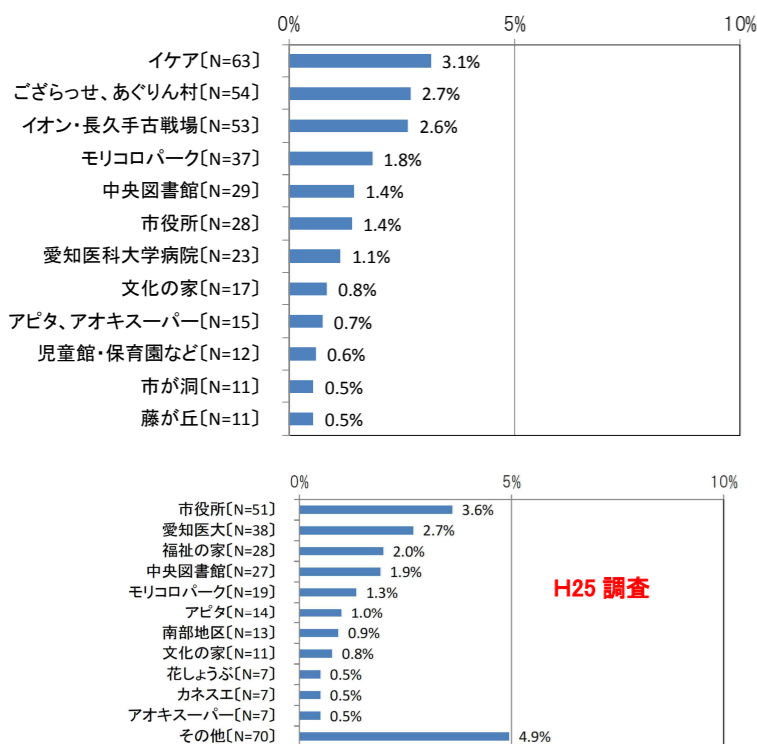
- N-バスの満足度は平成 25 年度調査と比べると高くなっている。
- 公共交通で行けるようになって欲しい施設のうち、リニモ沿線外の施設は「ござらっせ、あぐりん村」「中央図書館」「愛知医科大学病院」が上位に位置するが、N-バスがカバーしている。
- N-バスを利用しない理由をみると、「目的地まで時間がかかる」「乗換えが不便」が比較的多い。

- 「ござらっせ、あぐりん村」「中央図書館」「愛知医科大学病院」に行きたい地域の分布と、市役所でのN-バスの乗り継ぎを検証すると、待ち時間が長いことが明らかとなった。
- このことから、移動ニーズの変化に対応した乗り継ぎ体系への見直しが課題である。

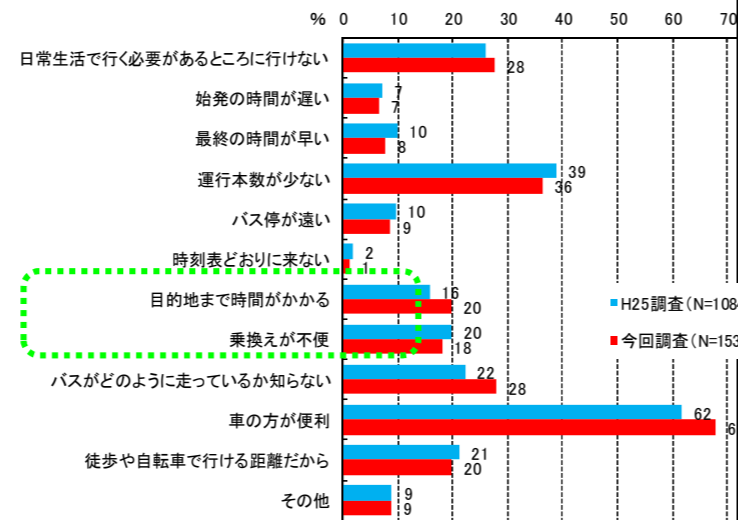
満足度と重要度



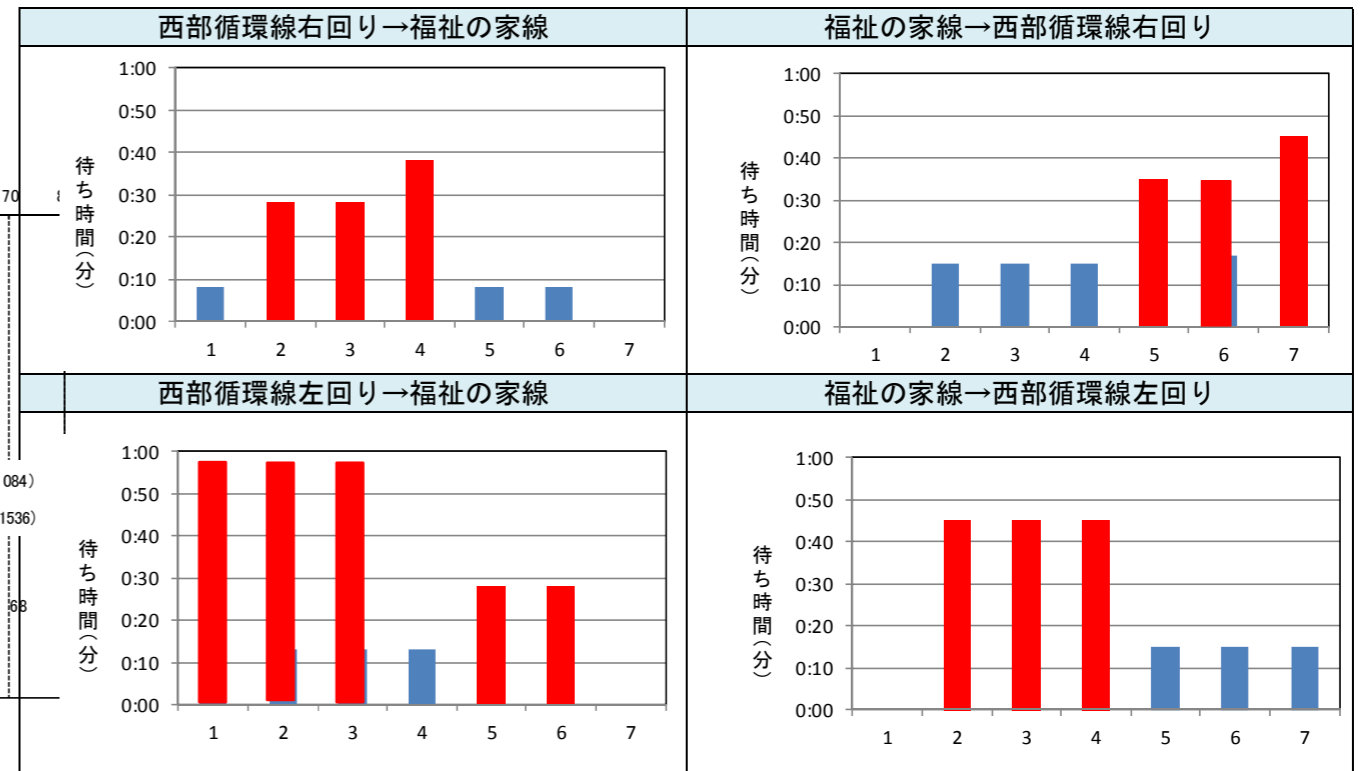
公共交通で行けるようになって欲しい施設



N-バスを利用しない理由



例) 西部循環線と福祉の家線の乗換え待ち時間



※赤表示は乗換待ち時間が20分を超える便。(グラフ下の数値は該当路線の便を指す。)

【Nバスの維持の課題】

- 全体では「定時定路線型の公共交通を市全域で運行」と考える割合が全体の約5割を占めている一方で、「利用者が少ない地域はデマンドを運行」と考える割合も約4割弱と比較的増えている。

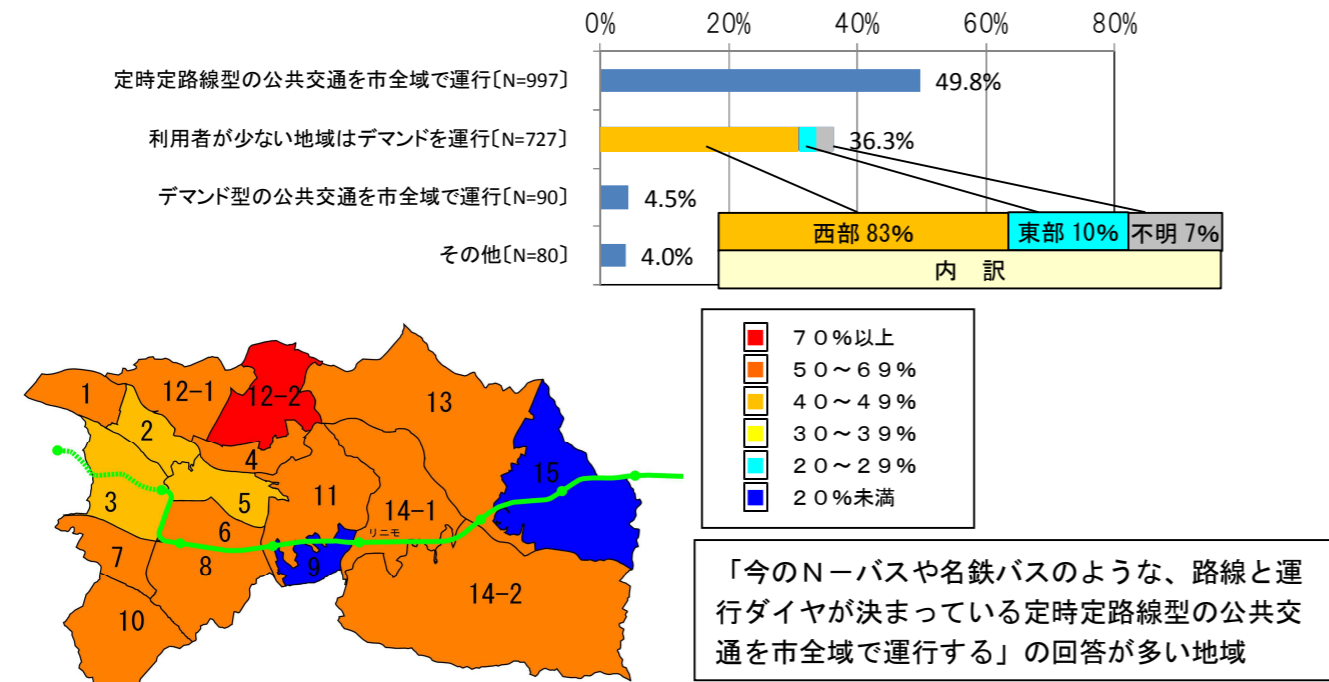
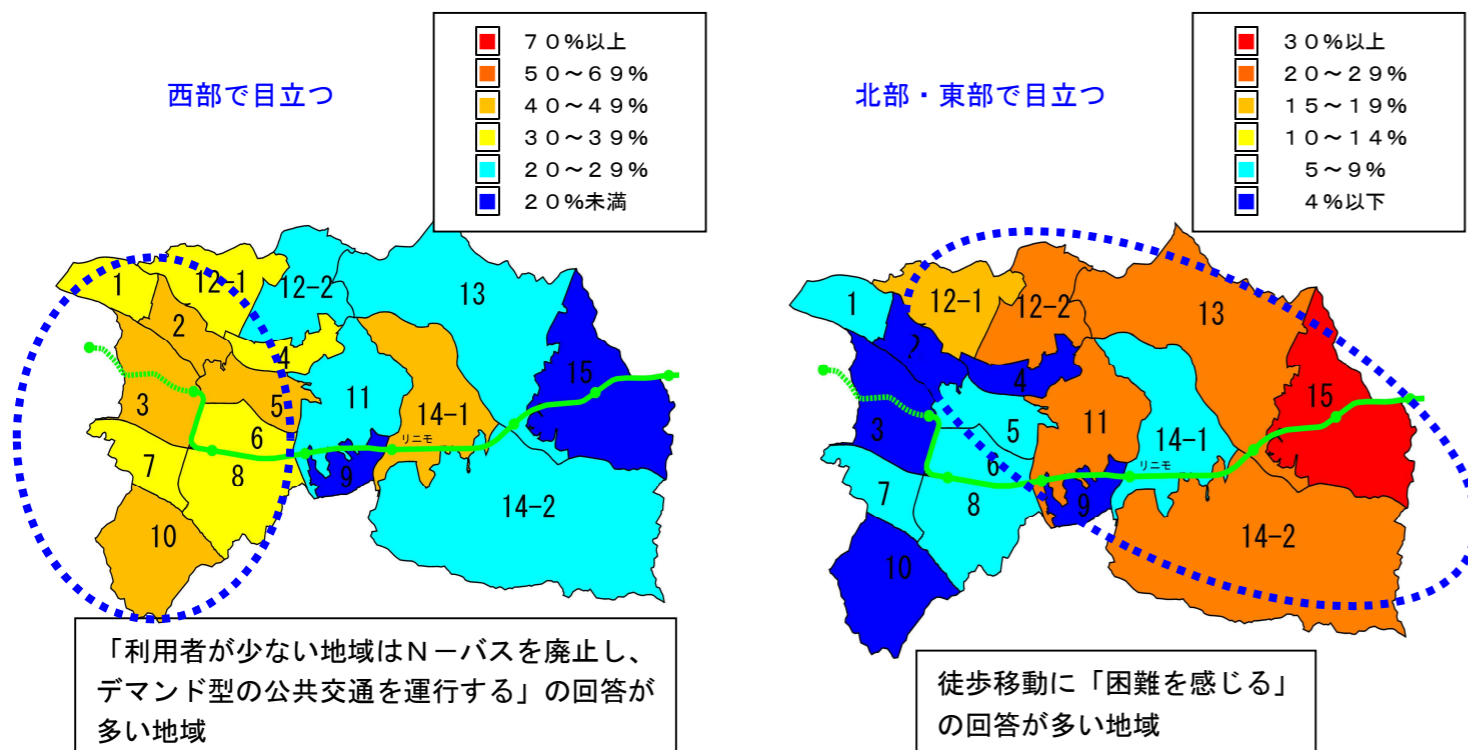


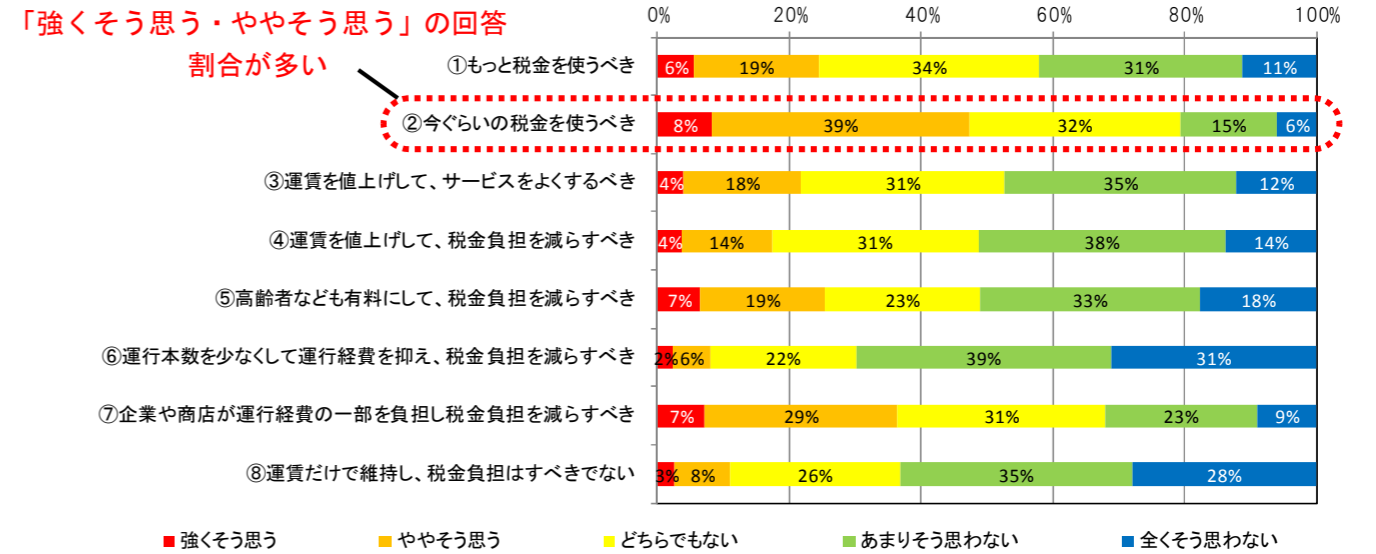
図 1-39 市内を移動しやすくするために必要と思う公共交通 ※1つ回答

「利用者が多い地域は定時定路線型の公共交通を運行し、利用者が少ない地域はNバスを廃止し、デマンド型の公共交通を運行する」の回答は、西部で目立つ。
 徒歩移動に「困難を感じる」の回答は、北部から東部にかけて目立つ。

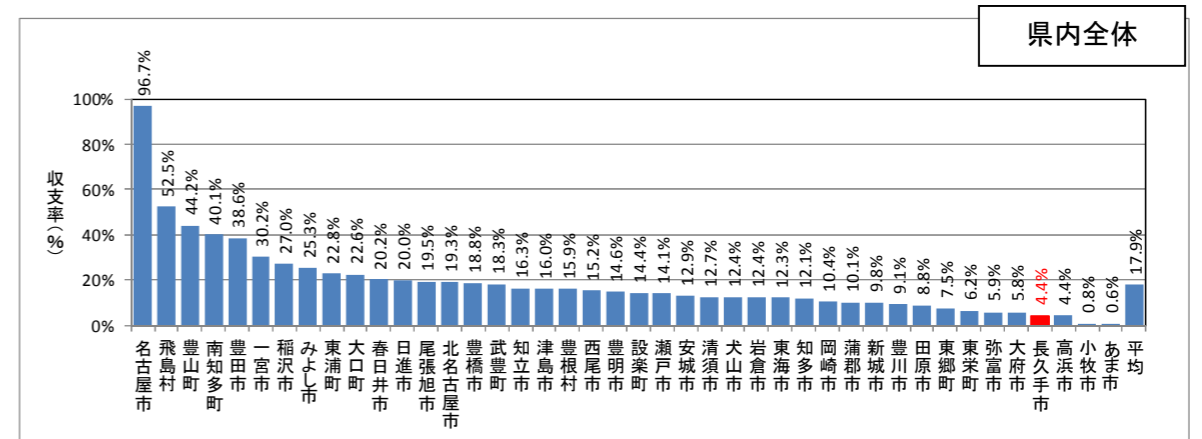


Nバスの維持の方法については、「強く思う・やや思う」の回答割合が多いのは「今ぐらいの税金を使うべき」が多い。

一方で、値上げを伴う維持は「あまりそう思わない・全くそう思わない」の回答が多い現状にある。
 今後の高齢化の進展による移動制約者の増加への対応や、Nバスの収支率が県内で低い現状も踏まえると、Nバスの持続可能性のある維持方法が課題である。



Nバスの維持の方法



資料：愛知県内の市町村における自主運行バス等の運行状況について（平成 29 年 5 月）
 ※無料で運行している自治体のコミュニティバスは除いている。

愛知県内のコミュニティバスの収支率（平成 28 年度実績）